

早稲田商学第 441・442 合併号

2 0 1 5 年 3 月

消 息

嶋村絃輝先生をお送りするにあたって

2015年3月末にご定年退職なさる嶋村絃輝先生に、商学部を代表して御礼を申し上げたく思います。

私が嶋村先生と初めてお目にかかったのは1976年4月のことです。当時、商学部生は3年生で英語経済学Ⅰ、4年生で英語経済学Ⅱを履修することになっていました。当時も今も学生の間ではどの先生の授業が成績を取りやすいか、どの先生が優しいかということが話題になります。学生はそうした判断基準で履修クラスを決めることが多いため、いわゆる新任の先生についてはまったく未知数で、敬遠する学生もいました。なんとも無責任な話で、自分が教員になってみると複雑な気持ちになります。

嶋村先生はちょうど私が3年生になった1976年に、初めて講義をおもちになりました。私がよく覚えているのは、前年まで講義要項等で先生のお名前をお見かけしたことがなかったからです。私と同姓の先生がいらっしゃるのを知り、未知数の先生の授業にチャレンジしようという気持ちではなく、どうせなら先生の授業を受けたいと思って英語経済学Ⅰを履修しました。私の書棚に残っている当時の講義要項では、嶋村先生の英語経済学Ⅰの説明にこう書いてありました。

「この授業の目的は、経済学の最も標準的な初級用のテキストの一つであるリブセイ・スタイナーを使用して、経済学の基礎理論全般を理解することです。本テキストの英文は平易かつ明瞭で、内容把握には多くの困難を伴いませんから、一年間には相当量を読みこなすことができます。しかし、本文900ページの大部ですから、授業では、テキストの全体の流れを考慮しつつ、主に理論面を扱った諸章を取り上げる予定です。理論の応用や政策の問題については、受講者自らが考える機会を持てるように、適宜問題を提起します。それらに対しては、各自にレポートを提出してもらうつもりです。」

正直に言えば、900ページものテキストを使うこと、相当量を読みこなすということを開けば、ごく一般的な学部3年生であった私にとって若干のチャレンジではありま

した。

嶋村先生は、75年9月までの3年間ミネソタ大学に学んでいらしたということです。76年4月の講義開始のときにはまさにお若くて元気いっぱい、力を蓄えて帰国されたばかりという状態です。重さ2キロ以上はあろうかというLipsey and Steinerの*Economics*を読みこなすと明言された講義に、ぼんやりした3年生の多くは音を上げていたように覚えています。授業は、数式やグラフが多く使われ、数学の苦手な級友は手も足も出ません。同姓であることが幸いし、嶋村先生に名前を覚えていただけた私ですが、なんとかがんばって付いていくのが精一杯でした。ともあれ、3年の授業が終わり、4年になって英語経済学Ⅱを履修するとき、再び嶋村先生のお世話になることにしました。せっかく購入した教科書をもう1年使おうという気持ちも少しありました。

先日、嶋村先生とお話したとき、「教科書が重くて大変だ、と言っていたね」と笑われました。ずいぶん失礼なことを言っていたようで赤面しますが、覚えていてくださったことをうれしく思いました。

嶋村先生は、とてもきまじめでてきぱきと授業をこなしていっていらっしゃいました。授業中に冗談などを話されるのは聞いたことがありません。その印象は、いまもほとんど変わりませんが、学部長経験者としての先生にご相談を持ちかけると、お忙しいときでも熱心に聞いてくださり、的確な判断でアドバイスをしてくださいました。本当に、いろいろなことで助けていただきました。感謝に堪えません。

嶋村先生が初めて講義をもたれたときに一学生であった私が、今、学部長として先生にお礼のことばを述べているのも不思議な気持ちになります。どうぞご健康には十分にお気を付けて、これからもご研究を続けていただきたいと思います。商学部、早稲田大学が嶋村先生から賜りましたご恩に心から感謝いたします。

早稲田大学商学部長

嶋村 和恵